

見附特別支援学校 学校だより

見附市立見附特別支援学校
令和8年度 第3号
令和8年7月24日
新潟県見附市月見台 1-10-74
電話 (0258) 63-2210
E-mail mitsuke.tokubetsu-ss@edu-niigata.ed.jp



児童生徒を「どまんなか」に据えたキャリア教育

進路指導主事

今年度の見附市「学校教育の重点」では、「生涯を通して必要となる生きる力の基礎の育成」と「こどもたち一人ひとりの可能性を開花させる教育や教育環境の充実」が掲げられています。これらを受け、当校では、児童生徒一人ひとりを「どまんなか」に据えたキャリア教育を推進しています。その取組の一部をご紹介します。

1 社会参加につながる力（社会参加能力）を育む取組

当校では、全学部を通して、挨拶や受け答えなどの社会性を育むことを大切にしています。自分なりの方法で周囲の人と関わる力は、生涯を通して必要となる「生きる力」の基盤であると考えています。日々の学校生活の中で、発達段階に応じたコミュニケーションの力を育み、将来、様々な人と関わりながら主体的に社会参加できる姿を目指しています。

2 自分で選び、決める力（自己選択能力）を育む取組

将来の進路を考える上では、自分で選び、自分で決める経験を積み重ねることが大切です。小・中学部では、図工（美術）で使う用具の色や余暇活動の遊びを選ぶなど、身近な生活の中で選択する機会を設けています。高等部では、職場実習先について教師や保護者と相談しながら希望を決めるなど、発達段階に応じて自己選択・自己決定の場面を設定しています。こうした経験を積み重ねることで、自ら考え判断し、主体的に進路を選択する力を育んでいます。

3 自分らしさを知り、可能性を広げる取組（自己理解）

進路を選択するためには、「自分に合っていること」を知ること大切です。音楽や体育、図工（美術）などの教科学習を通して「好きなこと」や「興味のあること」を見つけたり、家庭社会生活（ライフ）や作業学習などを通して「得意なこと」や「できること」を広げたりしています。様々な学習や経験を積み重ねながら自己理解を深め、一人ひとりが自分らしい将来の姿を思い描き、その可能性を広げられるよう支援しています。

見附市が掲げる「児童生徒を『どまんなか』に置き、学校・保護者・地域の大人が総がかりで取り組む教育（共創郷育）」の理念のもと、これからも子どもたち一人ひとりの可能性を大切に育み、将来、自分らしく社会の中で生き生きと活躍できるよう支援してまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学部紹介

小学部

7月9日（木）に、七夕集会を行いました。準備や司会進行は、4年生が行いました。

ゲームでは、違う学年の友達と2人で協力して、パズルのピースを運んでホワイトボードに貼り、織姫と彦星のパズルを完成させました。また、夜空に星をたくさん貼って、織姫と彦星をつなぐ天の川も完成させました。

願い事の発表では、各クラスの代表が願い事を発表した後、全員が笹の掲示物に自分の短冊を貼りました。

最後に、願い事が叶うよう「たなばたさま」の歌を全員で歌いました。

七夕の雰囲気味わえるあたたかい集会となりました。





◆ ◆ ◆ 中学部 ◆ ◆ ◆

6月17日(水)に社会科見学としてほっとぴあに行きました。

ほっとぴあでは、館内を隈なく案内していただいたり、ボイラー室に入らせていただいたり、タオルたたみ体験をさせていただきました。

見学の後は、施設の方に自分たちで考えた質問をしました。毎日およそ〇〇人～〇〇人の来場者がいることや、おすすめのレストランのメニューは〇〇〇と〇〇〇〇〇ということが分かりました(答えは↓)充実した見学となりました。

来場者は300～600人
おすすめメニューは、カレーライスとから揚げ、毎日仕込んでいる



◆ ◆ ◆ 高等部 ◆ ◆ ◆

7月2日(木)、高等部1年生は見附市内の校外学習に行ってきました。大風伝承館では自分の好きなイラストを描いて、オリジナルのエイ缶を作成し、道の駅パティオにいがたでは防災アーカイブを見学してきました。昼食はくいどころ里味にて、自分たちで選んだメニューを堪能しました。ザ・ダイソー原信見附店では「学校で使うもの」というミッションをクリアするために、担任と相談して商品を選び、セルフレジを使って自分で支払いをすることができました。

雨の中の校外学習でしたが、ルールやマナーを守って、楽しく活動してくることができました。

